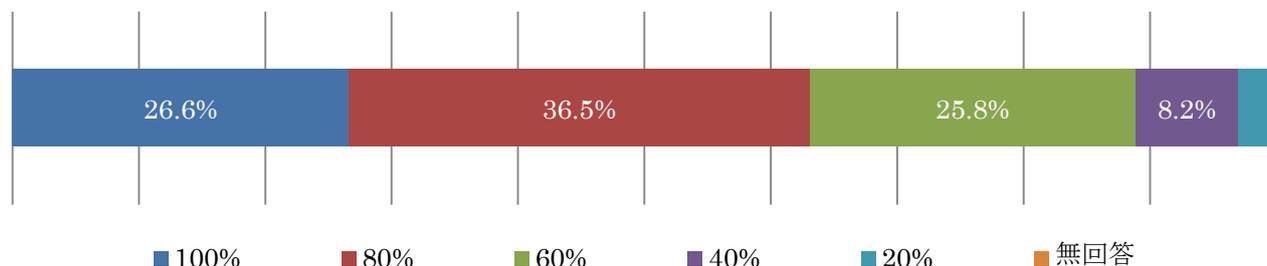


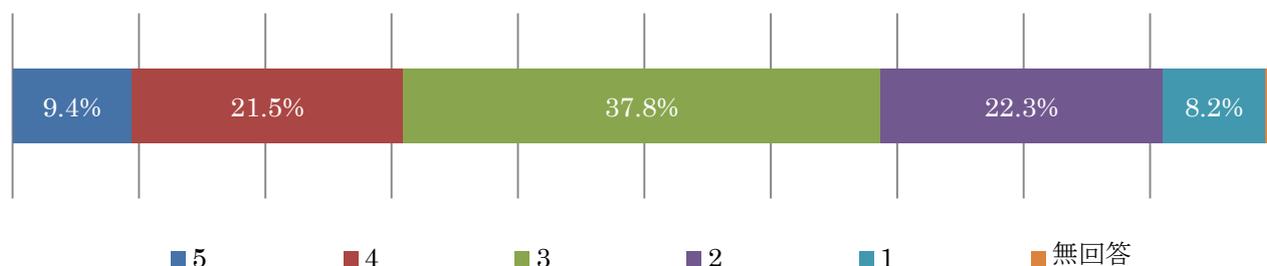
分析と結果 回答者 233 名

I 授業への参加度

① この授業にほとんど出席した



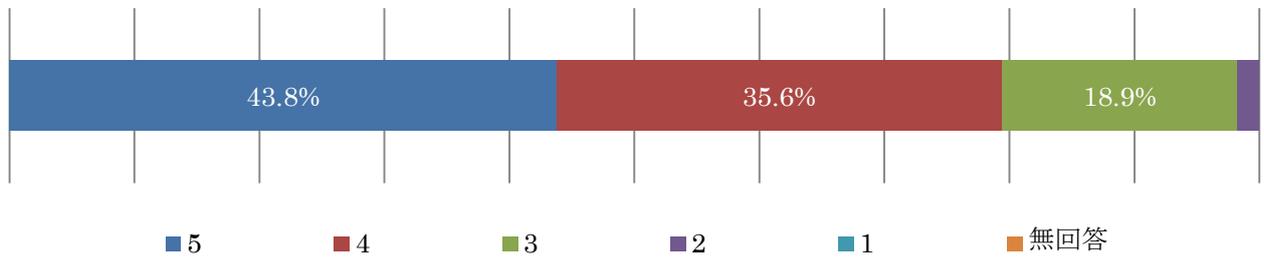
② この授業には積極的に参加し、自主的に学習した (5が最高の評価、1が最低の評価)



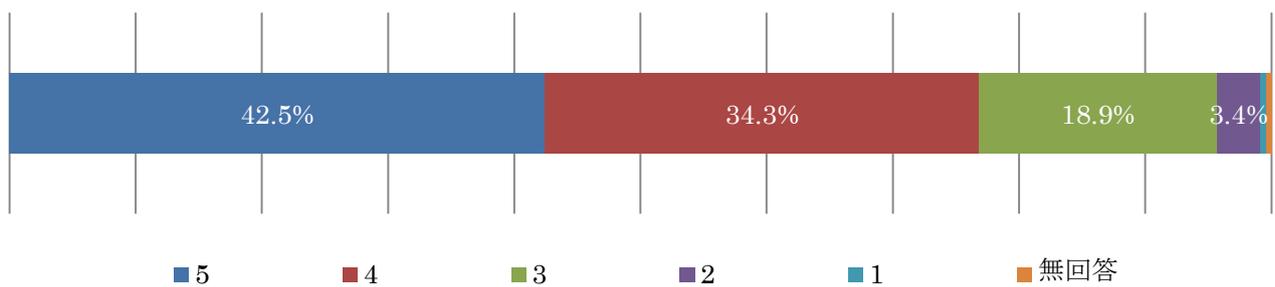
出席についてはおおむね良好であると思われる。②の「積極的な参加かどうか」については、アンケートの調査科目が概論科目であることから考えれば良好な数字であると分析されよう。つまり、学生が何を以て「積極的」と判断したかが問題であり、「今日もちゃんと授業に出よう」と考えたという程度のことを「わたしは積極的に参加した」と考えるとするならば、この数字には不満が残ることになるが、そもそも聴くことがベースである概論の講義の場合、「積極的」という概念が当てはまるのかという疑念を持った学生は、「2, 1」を選択せざるを得なかったと思われ、分析は非常に難しい。ただし、「自主的な学習」についてはさらなる分析が必要で、そもそも概論の講義で予習復習をすることを学生が考えているか（そもそも毎講時あたり3時間の予復習が必要であると設置基準が決めているという「法律」を知っているかどうか）が問題であり、さらに言うならば、それを果たして教員が要求するのか（すべきか）どうかも割り引いて考える必要がある。従って、この数字のみを以て「自主的な学習（をしようという意識）が本学部の学生には足りない」と判断するのは早計であり、本学部の場合、その予復習に充てる時間は演習実験等にその多くを割くことが必然的なすがたであることを理解しておく必要があると思われる。

II 内容について

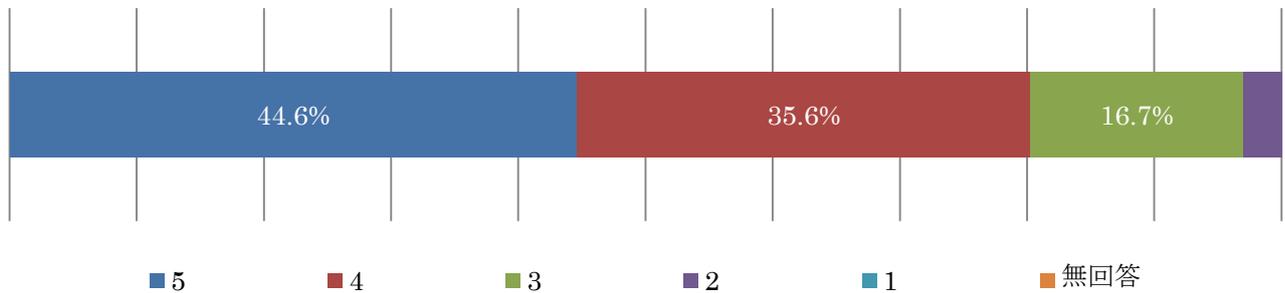
③ この授業はわかりやすかった (5が最高の評価、1が最低の評価)



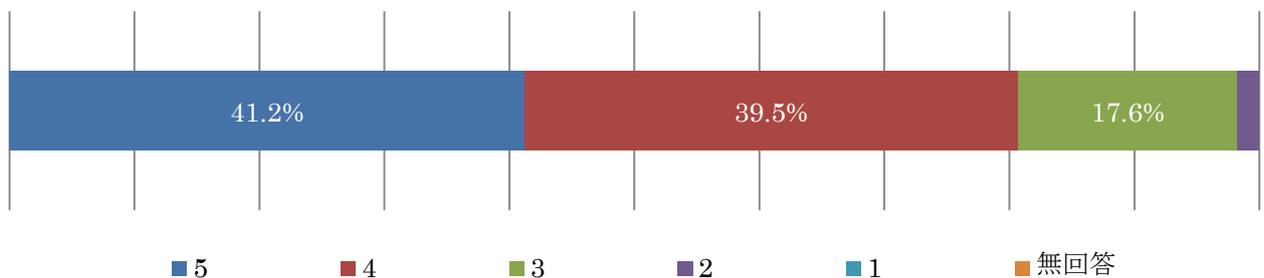
④ 授業内容は体系的であり、全体によくまとまっていた (5が最高の評価、1が最低の評価)



⑤ この授業は面白かった (5が最高の評価、1が最低の評価)



⑥ この授業は有益だった (5が最高の評価、1が最低の評価)

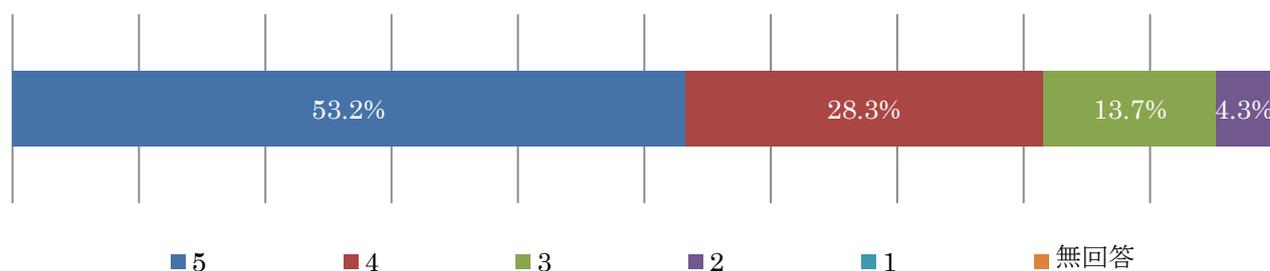


すべての項目について、「4」「5」を合わせれば75パーセントを超えており、目標はほぼ達成されているものと思われる。ただ、「わかりやすい」「体系的である」「面白い」「有益」の四項目について、数字はほ

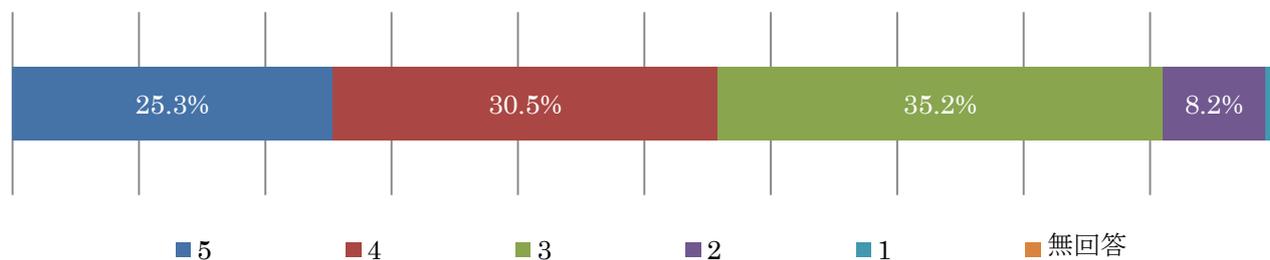
ば同じであって、同一人物はすべての項目に同じ評価をした可能性が高いことが推測される。仮にそうだとすると、「わかりやすさ」がその他の内容の印象に対して大きな影響を与えるのであり、授業内容にはやはり第一にこの項目を重視すべきであるという、素朴な分析も可能であろう。ただ、逆に言えば、この四項目を独立して回答するという作業について、アンケート回答者自身がこの四項目を分析して（できて）いないということもいえるのではないか。それこそ素朴な印象としては、「この授業は有益だった」という項目が、文学部の授業としてどんな意味を持つのかを考えると、それが他の三項目と同様の点数で答えられるということ自体に疑問を持たざるを得ない、という分析も可能である。「面白かった」という項目を立てる意味とともに、今後の課題となろう。

Ⅲ 方法について

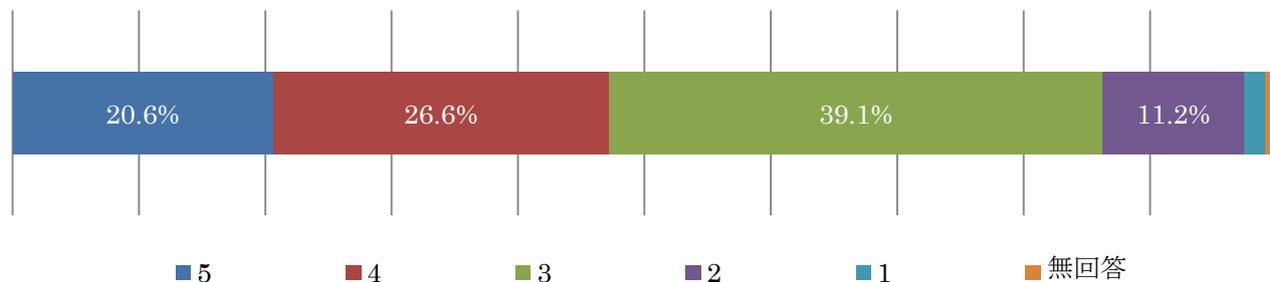
⑦ 声は聞き取りやすかった（5が最高の評価、1が最低の評価）



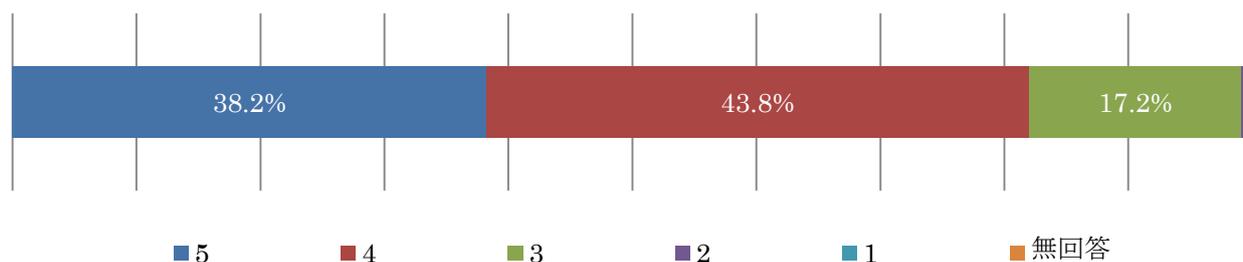
⑧ 学生の理解度や反応に配慮して授業が進められた（5が最高の評価、1が最低の評価）



⑨ 自主的な学習を促すための工夫や助言があった（5が最高の評価、1が最低の評価）



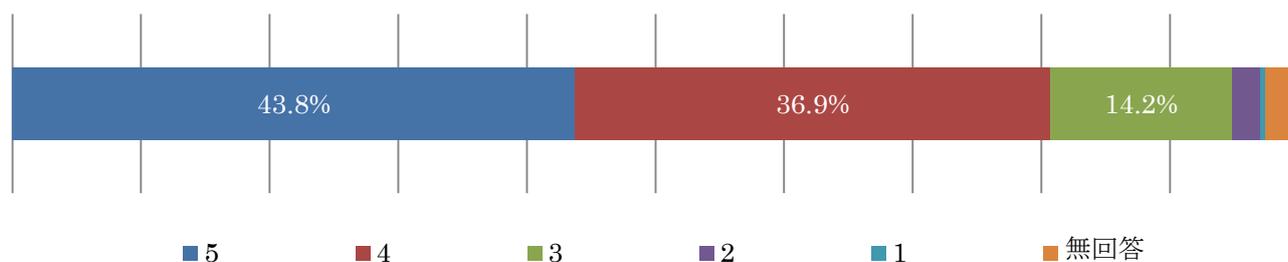
⑩ 授業に対する教員の熱意を感じた (5が最高の評価、1が最低の評価)



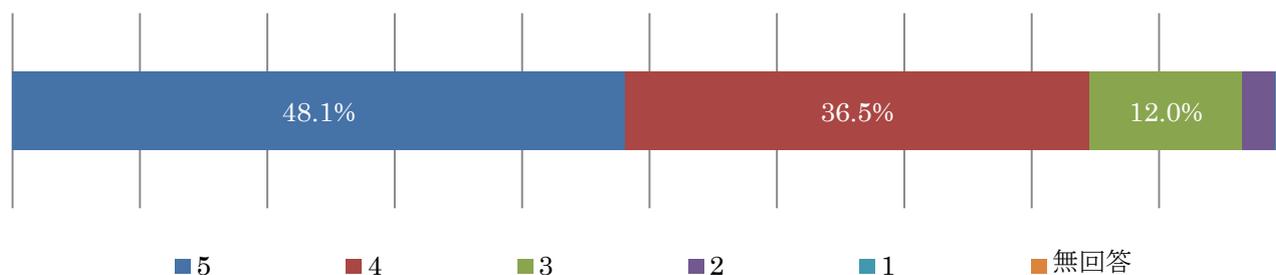
「声が聞き取りやすかった」という、単純に改善可能な項目について、「2もしくは1」の数字がこれだけあがっているということは、教員全員に周知すべきことがらであると思われる。また、⑧について、そこで否定的な回答がなされているということは、「理解度や反応を無視して進めている」という印象だと読めるわけだが、そこでの「3. 2. 1」を合計すると45パーセントほどという数字が出ているのと、上述のおおよそ「わかりやすいと思っているらしい」と推測出来る③の数値の開きには注意が必要であろう。つまり、「自分にはわかりやすかったが、こちらの理解度は無視している」という印象を持った学生が多いかもしれない、という推測である。要するに、「教員は学生の理解度などについては考慮なく授業を行っているが、理解度の高い学生にはちゃんと理解が出来ている」という状況である、ということである。それがよいことなのかどうかは意見が分かれようが、少なくともそのような現実は分析可能であろうと思われる。⑨については、②と同様な状況から、負の意見が多いことに問題はないと思われる。なお、⑩について、積極的に評価する回答が多かったことは、高く評価出来るものと思われる。

IV 総合的評価

⑪ シラバスの内容と授業内容はよく合致していた (5が最高の評価、1が最低の評価)



⑫ 全体としてこの授業に満足した (5が最高の評価、1が最低の評価)



概して目標は達成していると思われる。なお注目すべきは⑩の無回答「6」という数字であり、これは（他の項目の無回答の数字と比べると）そもそも学生がシラバスを気にしていないということを示す数字であろうと思われる。

※ アンケート全体の印象について

「5」の評価が一番多かったのが「声が聞き取りやすい」であるというのは、いささか残念ではあるが、それは学生がアンケート（の他の項目）に真摯に回答してくれた証でもあろうかと思われる。その点では学生諸氏に感謝したい。また、アンケート自体に対する否定的見方を書いた学生が複数いたことも特記すべきことであろうと思われる。なお、教室が寒いとか、プロジェクタの調子が悪いとかすぐに対応出来ることには改善に努めることができるので、これも「我慢強い」学生の気質を語る一面かもしれないが、教員側としてはつとめて改善すべきことがらであろう。

京都大学文学部「学生による授業評価」(平成 23 年度実施)

		評 価					
設 問		5	4	3	2	1	無回答
I.	あなたの授業への参加度について						
①	この授業にはほとんど出席した。(100%←→20%)	62	85	60	19	7	0
②	この授業には積極的に参加し、自主的に学習した。	22	50	88	52	19	2
II.	授業の内容について						
③	この授業はわかりやすかった。	102	83	44	4	0	0
④	授業内容は体系的であり、全体によくまとまっていた。	99	80	44	8	1	1
⑤	この授業は面白かった。	104	83	39	7	0	0
⑥	この授業は有益だった。	96	92	41	4	0	0
III.	授業の方法について						
⑦	声は聞き取りやすかった。	124	66	32	10	1	0
⑧	学生の理解度や反応に配慮して授業が進められた。	59	71	82	19	2	0
⑨	自主的な学習を促すための工夫や助言があった。	48	62	91	26	4	2
⑩	授業に対する教員の熱意を感じた。	89	102	40	2	0	0
IV.	総合的な評価						
⑪	シラバスの内容と授業内容はよく合致していた。	102	86	33	5	1	6
⑫	全体としてこの授業に満足した。	112	85	28	6	1	1

※5が最高、1が最低の評価